



福岡県糸島市「女性のはたらき方研究プロジェクト」

活動報告



2021 年度

相模女子大学・相模女子大学短期大学部

夢をかなえるセンター 連携教育推進課



目次

1. 本プロジェクトについて

2. 活動の流れ

3. 活動のまとめ

① インタビューについて

② プロジェクト OG との交流について

③ 糸島の魅力発信について

4. 活動を終えての感想

5. お世話になった方々のご紹介



1. 本プロジェクトについて

(1) はじめに

今年度、私たちは「女性のはたらき方」をテーマに掲げ、2年生～4年生の計9人のメンバーで活動をしました。

例年は二回の糸島訪問を経てインタビューをするのですが、今年度は新型コロナウイルスの影響でオンラインのみでの活動になりました。メンバー同士の対面が叶わず、会議やインタビュー、プロジェクト OG との交流会は、Zoom や SNS を活用して行いました。また、糸島市をもっと様々な人に知っていただくため Instagram を開設し、糸島の魅力やプロジェクトの活動内容等の投稿を行いました。

インタビューを進めるにあたって、開催後には必ず反省会を行い、改善点や反省点を共有し、各々の課題を見つけ、次回のインタビューのために改善に努めたことにより、回を重ねるごとに上達することができました。

また、プロジェクト OG と現メンバーで行った交流会では、現4年生のプロジェクト OG の方より就職活動のお話を伺いました。その他、趣味についてのトークや、全員でゲームをするなどをして、親睦を深めることができました。

今年度も昨年度と同様、オンラインのみでの活動ではありましたが、創意工夫を凝らしながら活動に取り組むことができ、より多くの可能性を感じたとともに、自身のスキルアップにつながりました。直接会わずとも、オンラインを活用して多くの方と繋がりが持てたことを私たちメンバー一同は誇りに思います。

(2) 「女性のはたらき方研究プロジェクト」について

「女性のはたらき方研究プロジェクト」は学生が福岡県糸島市で暮らす人や働く人に直接インタビューすることで女性の多様な働き方を調査・研究するものです。そしてそこで生じる課題や解決策を模索し、社会における女性、または自分自身の人生形成（生き方）における気付きや考え方をもち、自らの進むべき道を見つけ出す人になることを目的として1年を通して活動します。

しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で糸島へ訪問することが叶わず、ミーティング・インタビューは全て Zoom を用いてリモートで行われました。

2. 活動の流れ

- 2021,8.12 第一回 Zoom ミーティング (顔合わせ)
- 2021,8.18 第二回 Zoom ミーティング
- 2021,8.30 第三回 Zoom ミーティング
- 2021,9.9 第四回 Zoom ミーティング
- 2021,10.15 第五回 Zoom ミーティング
- 2021,12.2 第六回 Zoom ミーティング
- 2021,12.16 第七回 Zoom ミーティング
- 2022,1.13 第八回 Zoom ミーティング
- 2022,1.19 第九回 Zoom ミーティング
- 2022,1.27 第十回 Zoom ミーティング
- 2022,2.3 第十一回 Zoom ミーティング
- 2022,2.8 第一回 Zoom インタビュー
- 2022,2.10 プロジェクトOGとの交流会
- 2022,2.15 第二回 Zoom インタビュー
- 2022,2.17 第三回 Zoom インタビュー
- 2022,2.22 第四回 Zoom インタビュー
- 2022,3.3 第十二回 Zoom ミーティング
- 2022,3.17 第十三回 Zoom ミーティング
- 2022,3.30 第十四回 Zoom ミーティング (最終回・活動の振り返り)

3. 活動のまとめ

①インタビューについて

リーダー：三觜杏

副リーダー：稲葉女久美

インタビュー対象者：福岡県庁 女性活躍推進室 江上哲平さん 担当：三觜杏

福岡県庁の女性活躍推進室で女性の活躍推進に関する様々な取り組みを行っている江上さんにインタビューをさせていただきました。女性の働き方について調査研究する本プロジェクトにとって、女性活躍を推進することを目的として働かれている方にインタビューできたことはとても貴重な経験でした。女性の社会進出における割合を具体的な数字として見ることで、より目に見える結果がありこれからの社会のために挑戦すべきことは多くあると感じました。

● 女性の働き方の現状

約 512 万人が福岡県で生活しており、そのうち女性の有業者は 116 万人で全体の 45 パーセントと約半数を占めているとのことでした。しかし、女性管理職や役員の割合は低いのが現状です。5 年に一度県民に行われる意識調査からは、管理職は責任が重く知識や能力の面に不安を感じる事が、管理職を目指すことを妨げている一つの要因であると分かりました。それに加えて、福岡県は女性の就業割合において M 字カーブが強くみられ、平均勤続年数が男性は 12.8 年なのに対して、女性は 9.3 年と短く管理職につきにくいことが明らかになりました。子育てや育児により仕事を辞めざるを得ない状況は、福岡県に限らず日本全体の問題であるため、まずは自分の住む地域の現状を理解し、一人一人が意識を持ち行動することが重要であると感じます。日本だけに焦点をあてるのではなく、アイスランドやスイスのような女性の就業率が高い地域と比較することでより現状を強く理解できると思いました。

● 女性活躍推進に向けての福岡県での取り組み

女性活躍に向けて福岡県で現在取り組んでいるものは大きく分けて 4 つあるとのことでした。1 つ目は、平成 28 年に女性活躍推進法に基づいて設置された女性の活躍応援協議会です。女性がいきいきと働けるよう支援し、活力のある県にしようとして取り組んでいます。しかし、ここでも男性社員の割合が多いとのことでした。2 つ目は、職場の雰囲気を変えていくとする風土改革です。そこではアンコンシャス・バイアスの克服を目指しているとのこ

とでした。「男は仕事、女は家庭」というように無意識の偏ったモノの見方をするのではなく、誰もが挑戦できる環境に変化させるということです。3つ目は、長く働くことのできる職場環境づくりです。4つ目は、人材育成です。性別による区分ではなく、階層別に必要なスキルとマインドを習得する研修などを行うことで女性の活躍を推進しているとのことでした。ホスピタリティ業界でサービスの見える化が求められるように、女性の社会進出に向けての取り組みを目に見える形で示すことは重要であると感じます。そのため、福岡県で実施されているこれらの内容は今後の社会を形成する上で必要なものであり、魅力的に感じられました。

- 今後の女性の働き方について

私たちが「これからの女性の働き方」について考えようとするれば、それは「これまでの女性の働き方」を参考にしてしまうでしょう。しかし、江上さんは「これからの女性の働き方」がどう変化するかではなく、私たち自身がどう変化させるのかが重要であることをお話してくださいました。私たちは何にでも挑戦でき、これからの社会を作り上げる希望と勇気を与えてくれたように感じます。

インタビューを快く引き受けてくださった江上さんのご協力に感謝申し上げます。

インタビュー対象者：クレマデス海上愛さん 担当：三觜杏

よりよい環境を求めて糸島に移住されたクレマデス海上さんにインタビューをさせていただきました。様々な職業に携わられたクレマデス海上さんは人生経験が豊富なものであり、インタビューを通じてクレマデス海上さんの人柄の良さと、強いチャレンジ精神を心から感じました。社会人としてこれから挑戦し続けることが求められる私たちにとって、クレマデス海上さんにお話を伺うことができた経験は非常に学びとなるものでした。

- これまでの人生経験

福岡県が出身地であり、幼少期は山口県で生活されていたとのことでした。その後、父親の仕事の関係でアメリカに二年間ほど滞在し、再び山口県に戻ってきたそうです。学生時代にはヨーロッパを約一か月間旅行しており、特にその中でもスペインが魅力的に感じたとのことでした。これまで自身が学んできたことを仕事に活かすため、海外事業部へ就職されたそうです。当時の男女差別は目に見えるもので、海外からのお客さんを車でお連れするのは男性であることが常識でした。現在でも、車の運転をするのは男性であることが当たり前として捉えられていることが多いと思います。他の大手企業で働いた際にも、男性社会であることを感じ、一般職の女性に求められることは少なかったとお話されていました。特に、上司からの「男性であればよかったのに」という言葉は、現代を生きる私たちにとっても不信感を抱くものだと感じます。それに加えて、「男性であれば」「女性であれば」というよう

に、性別によって他者の価値観を比較するようなことがあってはならないと感じます。

一度職を離れ、スペインでの語学留学を決心されました。帰国後には「アジア太平洋こども会議・イン福岡」という団体で活動したり、糸島に移住された方をサポートする個人事業を行ったりしました。そして、現在は糸島で生活する人の増加を目指した「ママトコラボ」での活動や、海外の会社と連携したテレワークなどを行っているそうです。様々な人と関わることの出来る空間を求めるクレマデス海上さんは、今後も新たなことに挑戦するそうです。

海外での生活や様々な職業を経験されたクレマデス海上さんの姿から、いつまでも新しい事に挑戦し続ける重要性和気持ちの強さを感じました。また、クレマデス海上さんのお話を伺うことで「自分らしくいること」の大切さをより実感しました。

インタビューを引き受けてくださったクレマデス海上さんのご協力に感謝申し上げます。

インタビュー対象者：糸島ゲストハウス 前原宿ことのは 野北佳奈さん 担当：稲葉女久美

昨年度に引き続きインタビューを受けてくださり、野北さんの経験と糸島市での現在の活動や今後の発展について伺いました。

インタビューを通して、野北さんが糸島市に対して思っていることや現在行われている活動についても詳しくお伺いし、野北さんの人柄について知ることが出来ました。

また、野北さんはご夫婦で「前原宿ことのは」というゲストハウスを運営されていらっしゃる方で、ゲストハウスを運営する前は世界一周旅行をされて海外の文化に触れながら海外のゲストハウスからも良いところを学んでいらっしゃる方です。また、野北さんは交流の幅がとても広い方で、周りの方の考えを受け入れつつ、自分の意志や目標をしっかり持っていていらっしゃいます。ボランティア活動にも興味を持たれていて、現在は糸島市の海岸清掃や地域清掃を行っていて、海外旅行中もボランティア活動を行うほど、誰かのために行動することを惜しまない方だと思いました。他にも趣味として、カメラやピラティスを行っていて、ゲストハウスに来られるお客様の家族写真を撮ることや、お祝い事の撮影もされているそうです。その理由が、家族写真はお父さんが撮ることが多く、全員揃って撮ることが少ないから思い出として撮ってあげたいという思いがあったそうです。私は、このお話を聞いた時は、大変納得しました。

野北さんは、ボランティア活動は環境に関してだけでなく、地域の方々と協力しながら街を発展させていこうという思いが強く感じました。1番印象的なことは、「食べられる森」のお話です。フードロス削減のために作ろうと考えたことだそうで、誰でも食べてよい果樹園のような森を作ること为目标にしているそうです。この提案をできるのは、糸島市のごとも好きであり、誰かのために行動しようとする意識がなければ実現できないと思います。実際にこの話を聞いた時に、野北さんが本当に素晴らしい方で、とても尊敬しました。さらに、糸島市についての魅力を伺った時は、糸島市の魅力が多すぎるあまり、選べないということ

をおっしゃっていて、心の底から糸島市が好きな方だということが分かりました。夢であったゲストハウスの運営を実現するためにどうしたら良いかを考えて、やると決めたらすぐ行動に移し、ゲストハウスのコンセプト等を考えた上で、その考えを実行できたことを聞き、是非遊びに行きたいと思いました。

世界一周旅行についてのお話を伺った際は、分からないことは自分から学びに行く姿勢や、海外の文化について学びました。そして、日本文化との比較で日本の良さについても伺うことができました。野北さんは、日本人であることに誇りを持っていらっしゃる、それも世界の色々な国を訪れたからこそ言えることだと思いました。

野北さんは終始笑顔で、自分の経験を含めながら私たちにもアドバイスや糸島市の魅力、今後の計画や思いについてお話をしてくださって、短い時間でしたが充実した時間を過ごすことが出来ました。

インタビュー対象者：ママライター 中村由佳さん 担当：稲葉女久美

インタビュー通して、中村さんの経験についてだけでなく、糸島市の魅力を教えていただきました。人として、とても素晴らしい考え方をされていて、働き方や考え方について学びました。

中村さんは長い間看護師をされていていらっしゃる、結婚後のライフスタイルの変化により糸島市へ移住されて子育ての両立しながらライターとして活動されています。中村さんは物事を的確に効率よく取り組まれるところ印象的でした。その理由を伺ったところ、育児との両立や時間管理が出来るのは、看護師での経験を活かしているとおっしゃっていました。

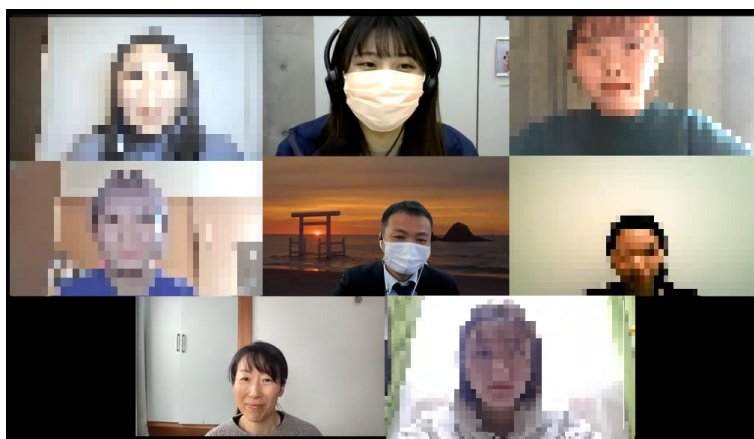
糸島に移住した際に、ご友人にママライターという仕事を紹介してもらい、応募したことがきっかけで、子育てをしながらライティングの生活が始まり、昼間は子育て、夜はライティングという自分の時間をとることがないような忙しい日々を送られていたそうです。その後、若松農園の方からサイトの記事の依頼を受け、現在も続けられているそうです。今では若松農園さんが事業拡大を行うために、中村さんは記事制作だけでなく、メールの返信等も行い、若松農園さんを軸としたテレワークセンターの2つのお仕事を両立して、ご活躍されているそうです。

中村さんは気さくに話して下さる方で、私たちが質問をたくさんしても全ての質問に対して丁寧に答えてくださったおかげで、お話も詳しく聞くことが出来ました。子育ても仕事も全力で努められていて、不安なことや辛い状況でも前向きに捉えられていて、どの場面でも活躍されている方だなと感じました。糸島市に対しても熱い思いを持たれていて、糸島に住んでいらっしゃる地域の方々を尊敬されていて、周りの方々との助け合いで交友関係を広げられている印象を受けました。また、元々勤められていた看護師にもやりがいを持たれていらっしゃる方で、常に困っている人がいたら助けることを当たり前ででき

る方だと思いました。さらに、子供たちが「糸島に住んで良かったと思ってもらえるように地域貢献したい」とおっしゃっていて、そのために看護師として糸島で働くことを考えているそうです。私は、長い間離れても戻りたいと思えるような仕事を見つけたいと思いました。加えて、中村さんのように自分で時間を上手く調整しながら、空いた時間でも仕事を上手く終わらせることや、行動できるようにしたいと思いました。

中村さんへのインタビューでは、現在の仕事から、過去の仕事の経験についてだけでなく、プライベートのことまで質問させていただき、今後のことについての相談にも乗っていただきました。終始笑顔でご対応いただき、様々なことを聞くことができたため、将来について想像するとともに、社会人になる前にどんな人になりたいのかを考える機会になり、とても充実した時間を過ごすことが出来ました。

◆ インタビューの様子



*野北さんへのインタビュー風景

②プロジェクト OG との交流について

リーダー：高橋華緒

副リーダー：田中琴巳

本年度は、新しく”プロジェクト OG との交流”という目標を掲げ、活動を行いました。本プロジェクトに参加していた先輩方とオンラインにてお話をさせていただき、糸島市の方々にインタビューをしてきた経験や就職活動等の貴重なお話を伺うことができました。

* 協力して下さったプロジェクト OG の方々 *

2020 年度参加	日本語日本文学科	2 年生	村吉恵梨さん
2020 年度参加	日本語日本文学科	2 年生	矢野本子さん
2020 年度参加	英語文化コミュニケーション学科	3 年生	足立枝恵さん
2020 年度参加	管理栄養学科	2 年生	大嶽こなつさん
2019・20 年度参加	メディア情報学科	4 年生	水木愛さん
2019 年度参加	管理栄養学科	3 年生	鎌田朝子さん
2019 年度参加	社会マネジメント学科	3 年生	松下稚奈さん
2019 年度参加	社会マネジメント学科	4 年生	中村紬依さん
2017・18・19 年度参加	管理栄養学科	2020 年度卒業	深澤多絵さん
2018・19 年度参加	健康栄養学科	2020 年度卒業	吉原なる花さん
2017・18 年度参加	健康栄養学科	2019 年度卒業	小池由佳さん

本プロジェクトに参加経験のある OG の方々とオンライン会議システム（zoom）を利用した座談会を行いました。プロジェクト OG に複数の質問を行い、今まで糸島市の方々から伺った貴重なお話やエピソードをお聞きしました。また、就職活動や個人的な趣味等のお話も伺い、レクリエーション等を交えながら親睦を深め、有意義な時間を過ごすことができました。交流会により、プロジェクト OG や糸島市の関係者との繋がりを絶やすことなく、たてとよこの繋がりが生まれることを感じることができました。

◆ プロジェクト OG との交流会の様子



③糸島の魅力発信について

リーダー：鉢呂文奈

副リーダー：二反田雪乃、三崎友里花

糸島市は、福岡県福岡市の西側にある都市です。自然豊かで海と山に恵まれつつも、都市部へのアクセスも良く、住みやすい街になっています！そのこともあってか、移住者も多く、世界で最も魅力的な小都市として世界第3位となっています（グローバル情報誌『モノクル』より）。

糸島市には昔ながらの食堂をはじめとして、おしゃれなカフェやスポットが多くあり、幅広い世代の方々を惹きつけています。糸島市は食も豊かで、牡蠣やハマグリなどの魚介類やいちごなどの果物が特産品です。観光スポットも多く、プロポーズなどのサプライズ場所としても有名です。

➤ 海のおすすめポイント

- ・幣の浜
- ・姉子の浜
- ・桜井二見ヶ浦
- ・深江海水浴場
- ・ロンドンバスカフェ など

➤ 山のおすすめポイント

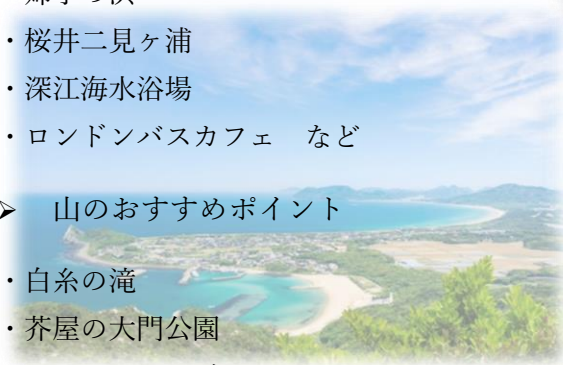
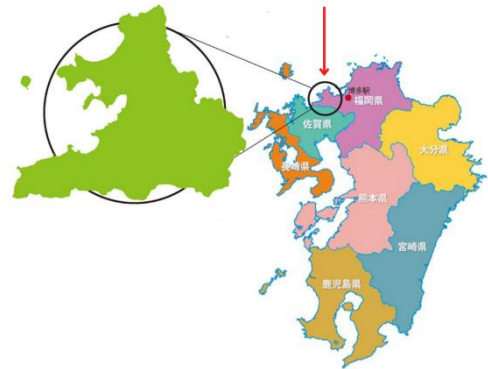
- ・白糸の滝
- ・芥屋の大門公園
- ・フォレストアドベンチャー
- ・櫻井神社 など

➤ (株)糸島みるくぷらんとの魅力

我々情報発信チームは「開発した商品を購入してくださる方においしい牛乳を届けたい」をコンセプトにしていらっしゃる(株)みるくぷらんとさんに ZOOM でインタビューをしました。

インタビューをさせていただく前に、糸島みるくぷらんとさんから飲むヨーグルト三種【プレーン・あまおう・微糖】を送っていただき、試飲をしました。12月に実施した糸島

糸島市はココにあります！



みるくぷらんとさんとのオンライン交流会では、商品開発をしていらっしゃる方に味の感想をお伝えし、PRに向けたインタビューを行いました。インタビューでお答えいただいたことをもとに、新たに開設したInstagramにて糸島みるくぷらんとさんのPRを目的とした投稿をしました。

開発担当者の方のお話によると、市民の皆さんで森の開拓をしたり、近隣の方と育てたものをおすそ分けし合ったりするなど、地域の方々との交流が盛んに行われており、とても過ごしやすそうな印象を受けました。糸島市は移住する方も多いため、私も移住を考えてみたくなりました。

➤ 情報発信グループの活動の流れ

12月 Instagram 新規アカウント作成

12月～3月 投稿開始

12月下旬 (株)糸島みるくぷらんととの対談

【情報発信グループの活動内容】

Instagramにて主に1本/週の投稿を行いました。

投稿内容としては、

- ・糸島市の概要
- ・オンライン地域物産展の紹介
- ・いとしまのイルミネーション
- ・(株)糸島みるくぷらんとさんの対談内容
- ・糸島市のマスコットキャラクターの紹介
- ・おすすめスポット など

糸島市役所の方々の協力を得ながら、その他糸島市の魅力について発信しました。

○Instagram アカウント：<https://www.instagram.com/sagajyo.itoshima2021/>

また、学内への広報としてチラシの作成なども実施しました。

4. 活動を終えての感想

英語文化コミュニケーション学科 3年 稲葉女久美 担当：プロジェクト全体リーダー

私は、本プロジェクトに2回目の参加をし、リーダーとして活動してきました。2回目だからこそ前回の良い点や改善点を踏まえ、メンバーをサポートしつつまとめることを目標として活動してきました。

他学年と交流する活動のリーダーを今まで行ったことがなかったため、最初の頃はどのように取り組んでいけばよいのかわからない状態でしたが、周りの方にサポートしていただきながら終えることが出来ました。ですが、全員の意識や考え方の違いによって、やりづらくなってしまったメンバーもいたことが悔しく、自分の至らなさを感じました。その中で、自分の立場をどうしていくのが良いかを考えた時に、自分が過去の経験をみんなに伝え、参考にしてもらいながら少しでも役に立ちたいと考えました。自分自身もやり方が変わってしまったり、環境の変化で活動中に苦戦したこともありましたが、話を聞いていただいたりお手伝いをしてくださった方々のおかげで、無事に乗り越えることができてよかったです。

さらに今回もインタビューに携わらせていただき、前回伺った方にも再度インタビューをさせていただきました。糸島市の変化も学ぶことができただけでなく、さらに糸島市に興味を持つことができました。そのため、世の中が落ち着き始めたら必ず1番最初に訪れたいと思います。また、前回のインタビューで出た改善点を今回は直すことができ、成長を自分でも感じる事が出来ました。そのため、インタビューしている間も盛り上げることで話しやすい雰囲気を作ることが出来たと思います。

本プロジェクトに関わる事が出来て、今までの自分の考え方や行動の仕方に変化が現れました。今回はメンバーの人数も多かったため、前回挑戦できなかったことにも挑戦することができただけでなく、意見も多く出たため、活発に活動を進めていくことが出来ました。より成長することができた1年間になりました。そして本プロジェクトを通して、視点や価値観が異なる他学年、他学科と関わることで、他者と交流する大切さを実感しました。今回の活動で得たスキルや知識を今後の生活にも活かしていきたいと思います。

英語文化コミュニケーション学科 2年 三觜杏 担当：はたらき方研究・インタビュー

私は本プロジェクトを通じて今後の社会において新たな発見と希望を見つけることができました。まず初めに、私たち女性は職につく上で「これまでの女性の働き方」に自分自身をマッチさせる必要はないということです。今後どのような働き方をしたいのか、そのためにはどのような行動を起こすべきなのかを考え、積極的に挑戦し続けることが今後の働き方を多様なものにしてくれます。糸島で生活する方々は、心が温かく、気持ちに余裕がある印象を受けました。それは、自分が興味のある物事を積極的に生活の中に取り入れ、日々挑戦し続けているからだと感じます。それぞれが興味のあることを通して個々の魅力を最大限に活かし、多くの人とコミュニケーションを取り、お互いを尊重し合う空間があるからこ

そ「糸島は人が温かい」と感じられる雰囲気があるのではないのでしょうか。また、そのような雰囲気こそが「働きやすさ」や「生活しやすさ」にも影響するのだと思います。

次に、私たちは他の地域と自分の住む地域を比較することで、自分の地域の魅力に気づくことができます。多くの学生から「自分の住む地域は何もない」と言葉にするのを耳にします。それは自分の住む地域についてよく知らないからです。糸島の方々が彼らの地域を誇りに感じられるのは、多くの意見交換をし、彼らの地域でともに生活し様々な体験をしているからです。だからこそ自分の地域が魅力的であると社会に発信できるのだと思います。人が生活する場所、集まっている場所には何かしらの魅力があり、何もなしに集まることはありません。慣れた環境に溶け込んでしまい、全てを当たり前として捉えているため気付いていないのだと思います。そのため、一度他の地域に足を運び意見交換をし、再び地元について考えることで魅力に気づけるのではないのでしょうか。何よりも人との交流を大切にすることが重要であると感じます。

本プロジェクトを通じて働き方の多様性について考えさせられました。また、それぞれの地域を活性化させるためには自分の地域について様々な知識と誇りを持ち、発信していくことが大切です。本プロジェクトを通じて出会えたインタビューにご協力いただいた方々や糸島市役所の方々、相模女子大学連携教育推進課の方、プロジェクトメンバーに感謝し、ここでの学びを将来に活かしていきたいと思います。

英語文化コミュニケーション学科 2年 高橋華緒 担当：OGとのプラットフォーム作り

私は、本プロジェクトに参加し、様々なことを発見して得ることができました。

まず、私が本プロジェクトに参加した理由は、色んな経験をしたかったからです。実際に昨年度の活動報告書にて活動内容を知り、このようなことをして遠く離れた地域とつながっていることに魅力を感じました。今回は、コロナ禍で糸島の方々と実際には会えてはいないのですが、様々な方にインタビューをさせていただくと、ほとんどの方が「糸島にぜひ来てください。来た時には声を掛けてください。」と心優しくおっしゃってくださいました。Zoom上でしかお会いしたことがありませんが、繋がることに糸島の方々の温かさを知りました。また、本プロジェクトに参加経験のある先輩方とお話する機会を設け、そこで他の糸島の方のお話を聞くことができました。相模女子大学の中でも学年学科問わず繋がれたことが、とても嬉しかったです。月に2回ほどのペースでzoomミーティングを行い、インタビューや反省会を開くことで学ぶことも多かったです。特に学んだことは質疑応答の際に自分が質問をし、答えてくださったことに対し「ありがとうございました。」で返すのではなく自分の意見をしっかりと話すことです。共感する部分は共感し、初めて知った部分は学んだことを言葉に出して、しっかりと回答してくださった方に想いや意見を伝えることが良いと思いました。

このプロジェクトを通して多くの学びがあったので、来年も関わることができたら関わっていきたいです。また、実際に糸島を訪れたいと思います。本プロジェクトに参加でき、

とても嬉しく、感謝をしています。ありがとうございました。

英語文化コミュニケーション学科 2年 田中琴巳 担当：OGとのプラットフォーム作り

私はコロナ禍で入学をし、オンライン授業が中心の生活になりました。何かコロナ禍でも出来ないかと探していたところ、本プロジェクトを知り、参加しました。糸島へ行ったことが無かったので自分で糸島について検索し、さらにインタビューを通して糸島の魅力について沢山知ることが出来ました。本プロジェクトに参加することが出来たからこそ、過去のプロジェクトメンバー(OG)や糸島に住んでいる方と知り合うことが出来ました。縦や横のつながりが広がり、色々な女性の働き方があることを学び、将来私がどのような働きをするのか視野がとても広がりました。また現メンバーともコミュニケーションを沢山取ることが出来たので、学年や学科問わず、積極的にプロジェクトに参加することが出来ました。初めて顔合わせをしてから、ミーティングやインタビューを重ねるごとにお互い成長し合えて、本当にこのプロジェクトに参加できて良かったと思いました。このプロジェクトが終わってしまっても今後何かしらの形でプロジェクトメンバーと繋がりたいと思いました。今糸島へ行けないのがとても残念ですが、沢山糸島の魅力について学ぶことが出来たからこそ、感染状況が落ち着いた際は、糸島へ訪れたいです。本プロジェクトを支えてくださった糸島市役所の方や連携教育推進課の方、本当にありがとうございました。

子ども教育学科 4年 鉢呂文奈 担当：情報発信

私は学生生活の最後に、思い出に残ることをしたいと思ったことが、プロジェクトに参加したきっかけでした。相模女子大学では地域貢献活動が盛んであるということも入学した一つの理由でもあったので、1度は参加したいと思っていました。そこで、最近気になっていた糸島を拠点としたプロジェクトの存在を知り、また私が興味を持っている「情報発信」をすることにも携わることができるという理由から参加を決めました。

プロジェクトに参加することは、最初で最後になったのですが、最後に勇気を振り絞って応募して良かったです。また、新たな自分の強みを見つけ出すことができましたし、学科・学年の異なる人や、糸島の方々に関わることができ、当プロジェクトに参加していなければ出会うことのない経験をすることもできたので大満足です！

しかし、私は糸島市に行ったことはなかったので、その土地を知らない状態で魅力を発信していくことはできるのだろうかという不安もありました。でも、糸島市役所の方から様々なアドバイスをいただきながら投稿を作成することができたので、糸島市のみならず市外の方からも Instagram を見ていただけるようになり、不安よりも情報発信をしていく楽しさの方が高まっていきました。

そして、情報発信を行ったことから、プロジェクトを超えて糸島市と繋がることのできる活動に携われることもできたので、ここから活動の幅を広げられるとは思っていませんでした。本プロジェクトのおかげです。もう少し早く参加していれば良かったと思うほどで

す。近いうちに糸島市を訪問してみたいという気持ちが高まりました。

私たちに力を貸していただきました連携教育推進課の皆様及び糸島市役所の皆様、1年間ありがとうございました。

社会マネジメント学科 2年 二反田雪乃 担当：情報発信

私は本プロジェクトに参加したことによって、成長できたと思います。プロジェクトに参加するまでは、自分から意見を出したり、人に質問すること等に苦手意識がありました。ただ、本プロジェクトに参加したことによって、情報グループ内で自分の意見を問われたり、インタビューで質問をできる時間を作っていただいたことによって成長できたと思っています。

また、私は情報発信を担当していたのですが、はじめは投稿の仕方すら分かっておらず、とても不安でした。しかし、グループの方に少しずつ教えてもらいながら、投稿することができたので良かったです。ただ、糸島の魅力発信を行っているにも関わらず、糸島市に実際に行ったことはなかったので、とにかくわからないことだらけでした。ですが、糸島市役所の方々とコミュニケーションをとりながら、糸島の観光名所、食べ物、自然など様々な分野について発信することができていたので、市役所の方々にはとても感謝しています。ありがとうございました。

最後に、前述したようにこれまで人と話すことがあまり好きではありませんでした。プロジェクトに参加したことによって、少しは克服できたように思います。本プロジェクトに参加して良かったです。ありがとうございました。

子ども教育学科 2年 三崎友里花 担当：情報発信

本プロジェクトに参加した理由は、一つです。私は、将来保育園や幼稚園で働きたいと思っています。現代の幼稚園や保育園は、遊びや経験を園の中で完結させるのではなく、地域の方々と連携し、社会はどのような仕組みで成り立っているのかを研究できるようにしようというのが現代の方針です。よって、発信力やどれだけ他者と連携をとれるかが重要になってきます。その発信力や連携を学ぶために私は本プロジェクトに参加しました。

活動を行う上で学んだことは、何事にも準備が必要である事です。インタビューをさせていただくにも、まずはその企業やインタビューさせていただく方のことを知らなければなりません。それを踏まえたうえで質問事項考え、本番に挑むのです。もし何も材料がなく、インタビューするとなると、質問する材料が手元になく、相手側に不快な思いを与え、今後一切インタビューに応じていただけないようになってしまっは困ります。

従って、インタビューをするにしろ、SNS に投稿するにも準備が必要であることを学びました。

5. お世話になった方々のご紹介

本年度の活動を行う上で、お世話になった方々をご紹介します。

前年度に引き続き「女性のはたらき方研究プロジェクト」は、新型コロナウイルスの影響により、全てオンラインでの活動になりました。このような環境の中で活動することができたのは、多くの人の温かいサポートがあったからです。お忙しい中にもかかわらず、インタビューを快く引き受けてくださった方々、女性のはたらき方研究プロジェクトを全面的にサポートしてくださった糸島市役所の方々や相模女子大学のご担当者にご心より感謝申し上げます。また、プロジェクトを通して出会えたメンバーにも感謝いたします。

クレマデス海上 愛 様

第一子の妊娠を機に、より落ち着く場所に住みたいと思い、福岡市から移住を決意。海が近く、地元の人が優しく、移住者との交流などを行いながら子育てを楽しんでいます。現在は主にテレワークでの仕事や海外と連携した仕事も行っている。

<https://itoshimalife.city.itoshima.lg.jp/immigration/voice/detail/?id=43>

<https://iroiro-connect.com/ai-ja/>

福岡県庁女性活躍推進室

江上 哲平 様

福岡県の女性活躍推進室で日々女性の活躍推進について考えている。また、福岡県での女性の働き方の現状と取り組み内容を発信している。留学された経験もあり、そこでの経験が現在にも活かされている。

[福岡県女性の活躍推進ポータルサイト『女性の活躍応援たい!』 \(pref.fukuoka.jp\)](https://pref.fukuoka.jp)

ママライター

中村 由佳 様

元・看護師で8歳、4歳のお子さんがおり、出産を機に、糸島に移住。糸島市主催の「ママライター育成講座」を受講し、ママライターとして活躍している。糸島市内の学校の魅力 PR 事業の取材・執筆や、糸島市ファミリー・サポート・センターの会報誌のディレクションなど幅広い仕事に携わっている。将来的にはライターかつナースを目標としている。

<https://mamatocolab.com/juzutsunagi/>

糸島ゲストハウス 前原宿ことのは

野北 佳奈 様

宮城県仙台市出身。東京で会社員として働いていた時に、同じく東京で働いていた糸島市出身の智之さんと出会い、結婚。夫婦で2014年12月～2015年11月、1年間の世界一周の旅を経験する。2015年12月に糸島市へ移住し、2016年8月、筑前前原駅前にゲストハウス「前原宿（まえばるしゆく） ことのは」をオープン。

<https://www.instagram.com/itoshima.kotonoha/>

<https://itoshima-guesthouse.com/>

https://ijuu-teijuu.pref.fukuoka.lg.jp/interviews/vol_48.html

(株)糸島みるくぷらんと

代表取締役 宮崎英文。生活文化の質が問われている時代の中で、生産者を厳選した高品質な牛乳を消費者に直接届けることで、豊かな食生活、生活文化に貢献し、地域社会とともに発展していくことを目指して設立され、ヨーグルトや牛乳をはじめとした乳製品を主として販売を行っている。

<https://www.itomonogatari.com/>